

様式4.文書管理システム要求仕様書(択一式回答)

検体・細菌検査システム要求仕様書(択一式回答)

項番	要求仕様	必須	回答	備考
1.基本機能				
1.1基本機能				
1	電子カルテシステムと細菌検査システムで、細菌検査情報[患者属性(患者番号、患者氏名、性別、生年月日)、細菌検査オーダー情報(検査項目情報、検体情報、検体到着情報、検体ラベル出力情報、依頼診療科・病棟、材料識別コード、検査中止・変更・追加)、検体到着確認情報、検査結果(検査結果情報、検体管理情報、検体コメント、結果コメント)]を双方向通信すること。	○		
2	検査結果、各種帳票類(ワークシート、未受付リスト、未検査リスト、未報告リスト、到着確認リストなど)、培地ラベルを出力すること。	○		
3	日次処理・データバックアップは自動で行えること。	○		
4	ME等接続機器が増設できる機能を有すること。	○		
5	一般細菌・抗酸菌・その他細菌検査及び外注細菌検査が行なえること。	○		
6	検体検査システムと接続し、検査結果(WBC、PCRなど)の連携が行なえること。	○		
7	利用者を限定・管理するために、利用者IDとパスワードの入力を行えること。	○		
8	別紙「検体検査・細菌検査連携機器一覧」にある機器のうち、接続システム名が細菌検査システムとある機器とオンラインでの接続を行うこと。	○		
2.検査依頼入力				
2.1検査依頼入力				
1	電子カルテシステムからの細菌検査オーダーに対して、オーダーの参照や修正ができること。	○		
2	依頼伝票(紙伝票)での新規受付機能を有すること。	○		
3	検体受付後に細菌検査システム内でオーダー情報の削除および変更できること。	○		
4	依頼入力(修正)画面が受付番号での読み出しが可能なこと。 また、検査依頼データの一括入力ができること。	○		
5	依頼入力画面にて検体の品質状態(性状・M&J)を入力できること。	○		
6	依頼情報として、以下の項目の入力が可能なこと。	-	-	-
7	・疾患名(感染症名)あるいは推定感染症名	○		
8	・検査目的	○		
9	・検出目的菌	○		
10	・現在使用中の抗菌剤の種類	○		
11	・感受性に特に必要とする抗菌剤(追加検査が必要な抗菌剤)	○		
12	・依頼コメント情報の入力	○		
13	一般細菌と抗酸菌の検査が同一オーダーでの依頼入力ができること。	○		
14	一般細菌と抗酸菌の番号は日通し番号、月通し番号、年通し番号のいずれにも対応できること。	○		
3.検体受付				
3.1検体受付				
1	電子カルテシステムからの細菌検査オーダーに対して、検体受付(検体到着確認)が行えること。また、そのタイミングで受付番号の発番が行えること。	○		
2	採取容器に貼付されたバーコードラベルをバーコードスキャナで読み取り検体の到着確認ができること。	○		
3	検体受付画面で患者情報、付帯情報の入力及び修正ができること。	○		
4	検体受付画面で、検体情報(性状等)の入力及び修正ができること。	○		
5	一般細菌検体受付と抗酸菌検体受付およびその他の到着確認を含む受付処理は、同一画面で処理できること。	○		

様式4.文書管理システム要求仕様書(択一式回答)

項番	要求仕様	必須	回答	備考
6	検体検査の検体受付画面と同一の画面で、ボタン操作無く検体・細菌の検体が受け付け可能なこと。	○		
7	検体受付と同時に培地ラベルの出力も可能なこと。	○		
8	培地ラベルは、下記の情報から自動で必要な種別が印字されること。	-	-	-
9	・材料	○		
10	・材料-依頼項目	○		
11	・材料-依頼項目-目的菌	○		
4.検体受付				
4.1検体ラベル				
1	オーダー入力により検体ラベルが発行できること。	○		
2	検体ラベルから患者ID、日付、オーダー番号などの依頼項目情報が得られること。	○		
3	検体ラベルに検体取扱いに関する注意事項が表示できること。	○		
5.ワークシート				
5.1ワークシート				
1	細菌検査ワークシートに以下の情報が記載されていること。	-	-	-
2	・受付番号および受付番号のバーコード	○		
3	・患者情報(氏名、診療科、性別、年齢など)	○		
4	・依頼項目	○		
5	・検査材料	○		
6	・主治医氏名	○		
7	・薬剤感受性検査追加薬剤(薬剤数に限りがないこと。)	○		
8	・前回値	○		
9	検体受付と同時に、細菌検査ワークシートが出力可能となること。	○		
10	1オーダー1枚のワークシートと、複数オーダー1枚のワークシートが出力できること。	○		
6.結果入力				
6.1結果入力				
1	一般細菌・抗酸菌・その他細菌検査の結果入力が行えること。	○		
2	結果入力画面は前検体、次検体へは、ワンボタンで、表示ができること。	○		
3	結果入力画面は検体ごとに表示でき、次患者への移動が可能なこと。	○		
4	1依頼1画面での詳細入力ができること。	○		
5	1依頼1画面の詳細入力画面は、検体ラベルや培地ラベルに印字されたバーコードで読み込みで画面展開ができること。	○		
6	1依頼1画面の詳細入力画面にて、現在電子カルテ上でセットされている患者の病名や投薬情報の参照がリアルタイムでできること。	○		
7	結果の入力内容により、警告表示機能があること。	○		
8	結果入力画面にて検体の品質状態を入力できること。	○		
9	培地ごとに培地観察情報を入力できること。	○		
10	顕微鏡検査結果の入力方法は、キーボードとマウスによる選択入力できること。	○		
11	複数のコメントをフリー入力できること。	○		
12	コメントは、コメントテーブルとしても登録でき、選択入力形式とコード直接入力できること。	○		

様式4.文書管理システム要求仕様書(択一式回答)

項番	要求仕様	必須	回答	備考
13	コメントにはオーダーに送信するフリーコメントと、検査部内のみで参照可能なフィールドが用意されていること。	○		
14	一般細菌と抗酸菌検査は、別画面で入力できること。	○		
15	検歴への結果送信の報告形態は、中間報告および最終報告とし、送信後はそれぞれ報告日を表示できること。	○		
16	結果入力は、検査項目毎と受付番号毎の2通りの方法で結果とコメントの入力ができること。	○		
17	検査結果情報を病院医療情報システムに送信できること。	○		
18	迅速検査・遺伝子検査等の項目の結果を入力できること。	○		
19	結果入力で即オーダーに送信するのではなく、技師の操作によりオーダーへ送信する、しないが管理できること。	○		
6.2一般細菌				
1	一般細菌結果入力で、以下の項目が入力可能であること。	-	-	-
2	・グラム染色性と菌量	○		
3	・検体品質管理情報(M&Jの分類など)	○		
4	・貪食像の有無と菌種のグラム染色性	○		
5	・塗抹検査で推定できる菌種名	○		
6	・グラム染色以外の染色法の結果入力	○		
7	・コメントの入力(定型文章一覧からの選択入力)	○		
8	塗抹検査入力画面について、以下の項目が表示、指示、入力できること。	-	-	-
9	・患者情報の表示	○		
10	・中間報告指示	○		
11	・2種類以上の染色法の結果入力	○		
12	・染色性や形態から推定できる菌種群の入力	○		
13	複数菌種の入力が可能で、菌量の入力は選択入力とキーボードによる直接入力できること。	○		
14	その他の結果情報については、菌種ごとの血清型や生物型などが入力できること。	○		
15	マスタにより、結果内容のチェックを制御できること。	○		
16	結果入力詳細画面では、菌種ごとに薬剤結果の入力ができること。	○		
17	複数の薬剤の結果登録が複数の菌種別にできること。	○		
18	薬剤感受性結果の入力は、半定量値及び、MIC値が入力できること。	○		
19	複数の薬剤感受性結果を管理できること。	○		
20	NCCLS判定値が報告できること。	○		
21	分離菌保存フラグ・保存菌株番号の自動発番が可能であること。	○		
22	耐性結果が複数菌種菌種入力できること。			
23	耐性菌自動判定、菌名変換できること。(MIPIC 耐性(R)の時、S.aureus がMRSAに自動変換するようなもの)			
24	培地観察情報入力に以下の項目が参照できること。	-	-	-
25	・塗抹検査結果情報			
26	・依頼情報			

様式4.文書管理システム要求仕様書(択一式回答)

項番	要求仕様	必須	回答	備考
27	尿定量検査の結果を入力できること。			
28	塗抹/同定/感受性夫々に結果を確定する操作が行えること。	○		
29	確定後の結果は誤入力を防ぐ機能が備わっていること。	○		
30	一旦確定した後確定を解除し、再び結果入力が可能になる機能が備わっていること。	○		
6.3抗酸菌結果入力				
1	塗抹検査入力画面については、下記の表示、指示、入力できること。	-	-	-
2	・患者情報表示	○		
3	・中間報告指示	○		
4	・2種類以上の染色法の結果入力	○		
5	・染色性や形態から推定できる菌種群の入力	○		
6	複数菌種の入力が可能なこと。	○		
7	マスタにより、結果内容のチェックを制御できること。	○		
8	結果入力詳細画面では、菌種ごとに薬剤結果の入力ができること。	○		
9	複数の薬剤の結果登録が複数の菌種別にできること。	○		
10	薬剤感受性結果の入力は、半定量値及び、MIC値が入力できること。	○		
11	複数の薬剤感受性結果を管理できること。	○		
12	塗抹結果の入力が可能であること。	○		
13	液体培養、固形培養の結果入力ができること。	○		
14	培養結果を週毎に入力できること。	○		
15	PCRの結果入力ができること。	○		
16	時系列表示ができること。	○		
17	抗酸菌同定検査の結果が複数入力できること。(DNA同定、PCRなど)	○		
18	塗抹/同定/感受性夫々に結果を確定する操作が行えること。	○		
19	外注検査のデータが、自動で入力されること。	○		
20	確定後の結果は誤入力を防ぐ機能が備わっていること。	○		
21	一旦確定した後確定を解除し、再び結果入力が可能になる機能が備わっていること。	○		
6.4一括入力				
1	一般細菌の塗抹結果の一括入力が可能なこと。	○		
2	抗酸菌の塗抹結果の一括入力が可能なこと。	○		
3	抗酸菌の特定週の培養結果の一括入力が可能なこと。	○		
4	抗酸菌のPCR項目の培養結果の一括入力が可能なこと。	○		
5	一括入力時あらかじめマスタに設定された値を、該当オーダの結果にセットする機能を有すること。			
6	一括入力後、中間/最終報告の出力可能状態に出来ること。	○		
7.時系列表示				
7.1時系列表示				
1	迅速検査オーダの時系列参照ができること。また、そのまま結果入力画面への遷移できること。	○		
2	一般細菌の塗抹に関しての時系列参照ができること。	○		

様式4.文書管理システム要求仕様書(択一式回答)

項番	要求仕様	必須	回答	備考
3	一般細菌の特定の患者の特定の菌に関する感受性の時系列参照ができること。	○		
4	抗酸菌の塗抹、培養結果の時系列参照ができること。	○		
5	抗酸菌のPCR結果の時系列参照ができること。	○		
8.一覧表示				
8.1一覧表示				
1	検査進捗状況を期間、担当者、中間報告、最終報告等の指定により検索し、表示が可能なこと。	○		
2	抗酸菌検査結果の一覧が表示でき、また病棟別、担当医別の絞り込み表示ができること。	○		
3	一覧画面にて検査の進捗状況が表示できること。	○		
4	一覧画面より依頼元、患者番号、材料グループ、依頼項目などの検索条件指定により該当検体の結果データ、属性データを表示できること。	○		
5	塗抹検査依頼のある患者一覧については、受付番号やパラメータの入力による一覧表示が画面表示で可能であること。	○		
6	患者一覧画面から、入力対象とする患者の結果入力画面を呼び出せること。	○		
7	未受付検体、受付検体情報を一覧画面で確認することが可能であること。	○		
8	塗抹、培養、感受性、その他の細菌関連検査の進捗状況が一覧にて表示できること。	○		
9.帳票				
9.1帳票				
1	薬剤感受性などの追加コスト一覧の出力が可能なこと。	○		
2	帳票は出力時にPDFなどで一定期間保存できること。	○		
3	病原体検出報告書の出力が出来ること。また対象菌はマスタにて制御できること。	○		
4	各帳票出力時には出力パラメータリストを出力できること。	○		
5	各帳票は印刷・プレビューが選択できること。	○		
6	各帳票は印刷先は変更できること。	○		
10.統計				
10.1統計				
1	以下の、各統計がEXCEL等のデータ形式で出力ができること。	-	-	-
2	・入外別菌出現率実数(指定期間の検体総数、検出数、検出数/検体総数)	○		
3	・入院病棟別菌出現率	○		
4	・外来科別菌出現率	○		
5	・入院科別菌出現率	○		
6	・材料別菌出現率	○		
7	・材料グループ別菌出現率	○		
8	・依頼件数統計	○		
9	・材料別依頼件数統計	○		
10	・材料グループ別依頼件数統計	○		
11	・耐性菌出現情報	○		
12	・薬剤感受性率	○		
13	・菌別分離マップ	○		
14	・累積MIC率	○		

様式4.文書管理システム要求仕様書(択一式回答)

項番	要求仕様	必須	回答	備考
15	・特殊菌新規患者一覧(MRSA等)	○		
16	・特殊菌検出状況(MRSA等)	○		
17	各統計はグラフ表示が可能なこと。	○		
18	各統計は菌グループ、材料グループごとの集計ができること。	○		
19	検体ごとに、診療報酬の点数集計ができること。	○		
20	細菌検査サーベランス(JANIS)に対応していること。	○		
21	インフルエンザ等の関連統計ができること。	○		
11.画像管理				
11.1画像管理				
1	細菌検査で扱う各種画像の取り込みと表示ができること。	○		
2	外注検査センターからの画像を取り込み、表示できること。	○		
12.電子カルテ連携				
12.1電子カルテ連携				
1	細菌オーダ情報の取り込みができること。	○		
2	細菌ラベル出力状況の受信ができること。	○		
3	細菌受付情報の送信ができること。	○		
4	細菌ラベル出力状況の送信ができること。	○		
5	細菌検査結果の送信ができること。	○		
6	患者病名の読み込みができること。	○		
7	投薬情報の読み込みができること。	○		
13.標準化対応				
13.1標準化対応				
1	検査項目マスタ、材料マスタとして、JLAC10コードを有する事。又JLAC10コード夫々の名称も全て取り込みが可能なこと。	○		
2	菌マスタのコードとしてJANISの菌コードを有すること。	○		
3	オーダ番号は15桁を有する事。又他システムのオーダ番号とは独自番号が発番でき、取り扱う事が出来ること。	○		
4	受付番号を発番する事が可能であり、他システムの受付番号とは独自番号が発番でき、取り扱う事が出来ること。	○		
14.マスタメンテ				
14.1マスタメンテ				
1	各種マスターの設定がユーザで可能であること。	○		
2	画面から各種マスターの設定が可能であること。	○		
3	検査システムで設定したマスタを電子カルテシステムへ反映できること。(電子カルテシステムとマスタ二重登録しないこと)	○		
4	受付可能件数は、一般細菌/抗酸菌各々1日当たり99,999件以上登録可能であること。	○		
5	検査項目名桁数は全角20桁以上であること。	○		
6	検査項目数を9,999件以上登録できること。	○		
7	正常値は、年齢別・性別に設定できること。	○		
8	材料を999件以上登録可能であること。	○		
9	検体容器(採取管)を999種類以上登録可能であること。	○		
10	依頼元診療科及び病棟は999件以上登録可能であること。	○		
20.その他				

様式4.文書管理システム要求仕様書(択一式回答)

項番	要求仕様	必須	回答	備考
20.1その他				
1	マスタ制御により、アクセス制限がかけられること。	○		
2	依頼・結果・マスタ等の更新時更新ログを採取でき、トレース画出来ること。	○		
20.2ログ機能				
1	データ変更履歴を保持すること。	○		
2	データ変更履歴を画面から容易に検索できること。	○		
3	依頼・結果・マスタ等の更新時更新ログを採取でき、トレースが出来ること。(版数管理)	○		
20.3バックアップ				
1	データのバックアップは自動で行えること。	○		
2	バックアップ中でも検査業務が行えること。	○		
3	検査室内でのメモ機能(送り事項)の入力ができること。また、送り事項の確認管理ができること。	○		
20.4動作環境				
1	クライアントサーバー型で稼動すること。また、クライアント端末は容易に増設可能なこと。	○		
2	クライアント端末は、マルチウィンドウ構成とし、複数の処理が同時に行えること。	○		
3	無停電電源装置を備えること。	○		
4	24時間、検体検査システムが使用できること。	○		
5	オンライン分析装置の増設が容易に行えること。	○		
6	障害対策用にネットワークを利用したリモートサポート体制があること。	○		
7	利用者毎に使用できる業務を制限できること。	○		
8	データ量が増加してもレスポンスに影響がないこと。	○		
9	検査センターに外注する検査依頼情報をオンラインもしくは、フロッピーに出力できること。	○		
10	検査センターに外注した検査結果をオンラインもしくは、フロッピーで取り込めること。	○		
11	外注先別に外注結果情報リストの出力が可能なこと。全外注分の出力も可能なこと。	○		
12	外注先別未検査リストが出力できること。	○		
13	検査センターへの依頼がFDと依頼書にでも行うことができること。	○		